

未満を期首の目標として掲げているが、前半を終えた時点では対人が72件（前年同期比1件減）、対物186件（同6件減）と目標のクリアには厳しい状況にある。なかでも昨年に急増し、今期も高止まりの傾向を示している「追突」「後退時の事故」が足を引っ張る

「正午～午後2時」も倍増となる一方、ここ5年間で最も危険な時間帯となっていた「午前10時～正午」は半減。年齢別では「40歳以上」のドライバーが起きた事故が対人で

「60歳」を境界線に對事故発生を時間帯で見ると、昨年比で「午前6～8時」が3倍増、「正午～午後2時」も5年間で最も危険な時間帯となっていた「午前10時～正午」は半減。年齢別では「40歳以上」のドライバーが起きた事故が対人で

「60歳」を境界線に對物事故の形態も比較。60歳未満では「追突」が全体の3割を占めているのに対し、60歳を超えたドライバーは「後退時の事故」が27%で最多。また「出合い頭」や「進路変更」の事故が急増する傾向にあることなどがわかった。（長尾和仁）